

チュウゴクアミガサハゴロモが多発しています！

—農家および県民の皆様へ—

チュウゴクアミガサハゴロモは中国を原産とするカメムシ目ハゴロモ科の昆虫であり、韓国に分布拡大した際にはブルーベリーに大きな被害をもたらしました。

平成27年に日本国内で初めて発生が確認されて以降、全国で確認事例が増加しており、昨年（令和6年）には国内の農作物への被害が初報告されました。本虫は非常に広範囲の植物を宿主として利用できることが知られており、植物体への吸汁加害や細い枝などへの産卵を行います。また、枝への産卵時に表面を白色のワックスのような物質で被覆し、卵を保護します。

今秋、県内全域で成虫の発生と産卵加害（各種植木類、果樹、茶など）が確認されており、成虫の発生量は予察灯の誘殺数で6倍以上と非常に多くなっています。

【チュウゴクアミガサハゴロモの生態と特徴】



▲成虫（背面図）



▲成虫（側面定位図）

※定位時の成虫は蛾に似ています



▲初齢幼虫（背面図）



▲終齢幼虫（背面図）

※幼虫は腹部の先端から白色のワックス質を分泌し、背面に向けて覆うような形態をとります（幼虫写真内赤矢印）



産卵枝

ふ化



初齢幼虫

吸汁
脱皮



終齢幼虫

羽化



羽化

成虫の産卵



成虫の産卵



成虫

・本年、埼玉県では成虫・幼虫ともに2回の発生が確認されました。
・秋に産卵された卵はそのまま越冬し、翌年の春に幼虫がふ化します。

【チュウゴクアミガサハゴロモによる被害の見分け方】

・県内には本種と同様に枝表面で白色のワックスを分泌する虫がいて、以下がその違いになります。

【チュウゴクアミガサハゴロモの場合】



枝表面のワックスをこすると、その下から木くずが詰まった亀裂が確認できる

【その他の虫 (写真はアオバハゴロモ) の場合】



ワックスを取ろうとすると虫が動く・ワックスが取れても枝に亀裂がない

【今できる（冬期）対策について】

- ①産卵された枝の切除・処分 → 発生源を取り除く
 - ②枝を切れない／切りたくない場合はテープで覆う → ふ化した幼虫が出て来られないようにする
 - ③冬季の対策は3月頃までに → 卵の**ふ化前**に行うことが重要
- ※切除した産卵枝は放置せず、穴を掘って埋めるなど適切に処分してください。



問い合わせ先: 埼玉県病害虫防除所 (熊谷市須賀広784 [TEL:048-539-0661](tel:048-539-0661))

作成: 令和7年11月

発行: 埼玉県病害虫防除所

埼玉県病害虫防除所公式X(エックス)アカウント→

